

## 医療の安全とセキュリティ

高倉 照彦 亀田総合病院 ME 室

医療安全は各施設で安全委員会を中心に事故防止に取り組み成果をあげている。病院では安全委員会を設置してヒヤリ・ハットの事例収集をおこない、事例から問題を提起し再発防止の策定をしている。このように病院ではリスクマネジメントが確実に浸透してきている。しかし職員が引き起こす事故だけに目を向けているだけでは「質の高い安全な医療」とはいえない。病院をとりまくあらゆる環境の変化に対応できるように災害時の対応、安全を侵害する者の対応などクライシスマネジメント（危機管理）も同時におこなわなければならない。

現代の医療の主役は医療機器であり医療機器なしでは治療ができないと言っても過言ではない。その医療機器も日常的に保守管理されていなければ安全性・信頼性は非常に低くなり高度な手技をもって治療していても医療機器が不安定であれば必ず事故は発生する。また医療機器はコンピュータ搭載型が多く災害などで一度電気が切れたら復帰させるまで時間を要する機種も増え無停電装置の確保が必要になっている。これらが全て医療の安全につながっていることは無視できない。

セキュリティ問題では病院という公共施設内への不特定多数の人の出入の問題があげられる。特に病院受付や外来など全く無防備であり、いつ暴力や盗難といった問題が発生するか分からない。来院者の保護を考えれば問題発生時の対策は練っておくことが必要である。

診療におけるセキュリティでは診療録情報が代表的な問題である。電子カルテが導入され診療録、検査結果、X線画像などすべての医療情報が電子媒体保存になっている。その情報も物理的に掌にはいる大きさ程度のメディアであれば一度に大量の情報が持ち出し可能であり医療施設にとっては死活問題にもなる。あらゆる防御を施していても完璧なものは何ひとつないのも事実である。さらに情報端末機の扱いは職員ひとりひとりのモラルに頼るしかなく完璧な情報セキュリティはまだ先の話で時間がかかりそうである。

病院界ではコンピュータ化が進み便利になった反面、不正アクセス、ウイルス侵入等の脅威に常にさらされている。終わりの見えない電子犯罪に対し更なる技術開発が求められている。